

第1回 NITS 大賞 (平成 29 年度) エントリーシート

日向市立日向中学校

C-37

【活動名】 メンター方式による初任者研修

解決すべき課題：
初任者を育てるための複数のメンターチームを機能させることで、多くの教職員が初任者と関わりをもちながら自校の初任者の育成を図る。

目的や背景：
変化する社会背景や宮崎県の実態、国の動向を踏まえ、今後4年間で取り組むことについて重点化した「教職員の資質向上実行プラン」の中に、若手教職員育成に関して「メンター方式による初期研修制度の構築」が挙げられている。教職員の大量退職・採用に伴い、教職員の優れた指導技術等を確実に若手や中堅職員に伝える具体的な取組が必要である。特に初任者の育成については、所属校が「初任者は学校で育てる」という意識をもち、全職員で初任者を育てる体制づくりが急務である。その具体的な取組として、平成29年度から「初任者校内研修の精選」「メンターチームによる初任者研修の実践」が開始され、本校はモデル校として指定を受けた。また、本校の実態として、講師を含め教職経験5年以下の若手教職員が7名(常勤教員の30%)おり、若手教職員の資質向上や授業力向上は課題でもある。
そこで、メンター方式の効果的な活用による初任者の育成を目指して本研究に取り組んだ。

活動内容：

- 1 より多くの教職員による初任者育成のための支援体制の構築
(1) メンターチームの編制と役割の明確化
校内指導教員のコーディネートのもとに基本研修、授業研修のそれぞれで、「コア・メンター」「メンター」を明確に位置付けて初任者研修を実施した。

基本研修	コア・メンター	教務主任(主幹教諭)、初任者配置学年主任、生徒指導主事、道徳教育主任、研究主任(教科指導教員)
	メンター	人権教育担当、保健主事、清掃担当、給食担当
授業研修	コア・メンター	初任者配置学年主任(指導教諭)、道徳教育主任、教科指導教員
	学年メンター	初任者配置学年主任、学年教職員
	メンター	総合的な学習の時間担当



教科・領域等の授業研究に台頭したコア・メンターやメンターとともに、学年メンター、初任者と同一教科教職員による支援体制等、授業研修における形態を工夫した。

- (2) 初任者及び講師の資質向上を図る授業研修の一連のプロセスの実施
教科の授業研究では、初任者と同一教科(数学科)教職員がチームを組み、指導案作成後の事前研究会や授業研究、事後研究会の一連のプロセスを行った。数学科の教職員チームには2名の講師も所属しており、若手教職員の育成推進を図る目的で初任者授業研究の一連のプロセスに講師も関わらせた。



- (3) 初任者をサポートする管理職の支援の工夫
ア 若手教職員の主体的研修会の実施
若手教職員(初任者、2年目、3年目、4年目、複数の講師)の主体的研修会に教頭がアドバイザーとして関わった。月に1回、メンバーが選定した内容を研修した。



- (ア) Off-JtとOJTの連携による資質の向上
初任者が、校外研修で学んできた内容をアウトプットする機会を設定した。

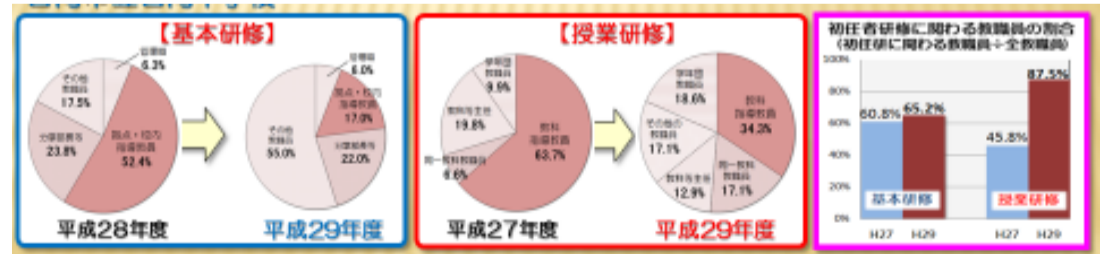


- (イ) 研修の充実
研修はメンバーが選定した内容を基本とし、輪番の担当者が企画・運営を行った。企画の相談や外部講師の依頼に教頭が関わった。

- イ リレー形式の朝食紹介の企画
若手教職員が、食育の一環としてリレー形式の朝食紹介の企画に取り組んだ。作成した朝食の紹介は、多くの教職員や生徒の目に触れる場所に掲示した。

活動の成果：

初任者研修に関わる教職員の割合が、基本研修はわずかではあるが、授業研修では大幅に増えた。複数のメンターチームが機能することで、多くの教職員が関わりをもちながら初任者の育成を図ることができた。
初任者をサポートする若手教職員の研修会の実施によって、初任者を含む若手教職員の資質や同僚性を高め、学校の教育力を向上につなげることができた。校外研修のアウトプットが初任者の深い理解に、講師等には新たな学びにつながった。
若手教職員のリレー形式の朝食紹介の企画によって、ミドル・ベテラン教職員との交流の機会づくりができた。



アピールポイント(アイディア)：
○ 多くの教職員がメンター方式の初任研に関わることで、「初任者は学校で育てる」という意識が高まった。
○ 初任者研修に関わったメンターの資質向上にも効果があった。
○ 研修の機会が限られている講師の研修の機会を増やし、資質向上につなげることができた。